

# 定 期 作 況 報 告

平成24年9月  
(9月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

# 1. 気象経過

8月下旬：最高気温、最低気温、平均気温はともに平年より極めて高かった。降水量は平年より少なかった（平年比46%）。日照時間は平年より多かった（平年比170%）。

9月上旬：最高気温、最低気温、平均気温はともに平年より極めて高かった。降水量は平年並であった（平年比114%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比134%）。

9月中旬：最高気温、最低気温、平均気温はともに平年より極めて高かった。降水量は平年より多かった（平年比144%）。日照時間は平年並であった（平年比107%）。

以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は平年と比較して、気温が極めて高く（+4.2℃）、降水量は平年並で、日照時間は平年よりやや多かった。

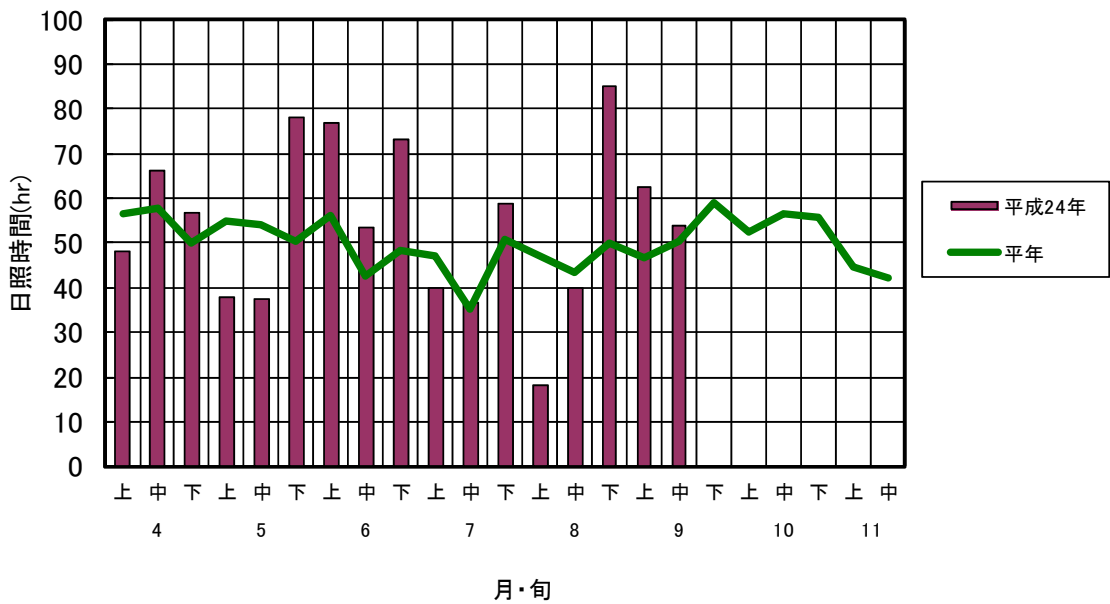
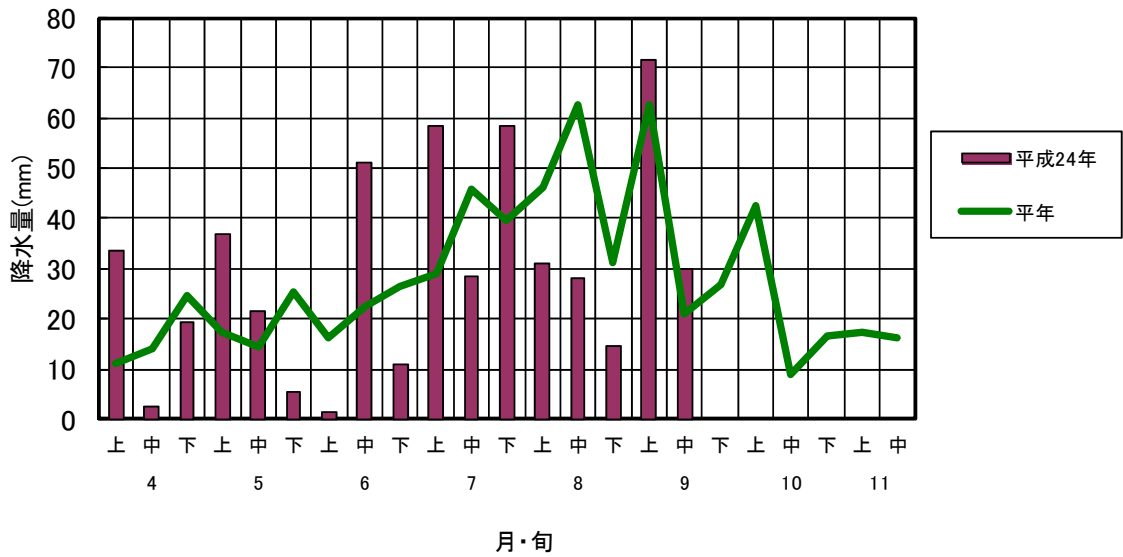
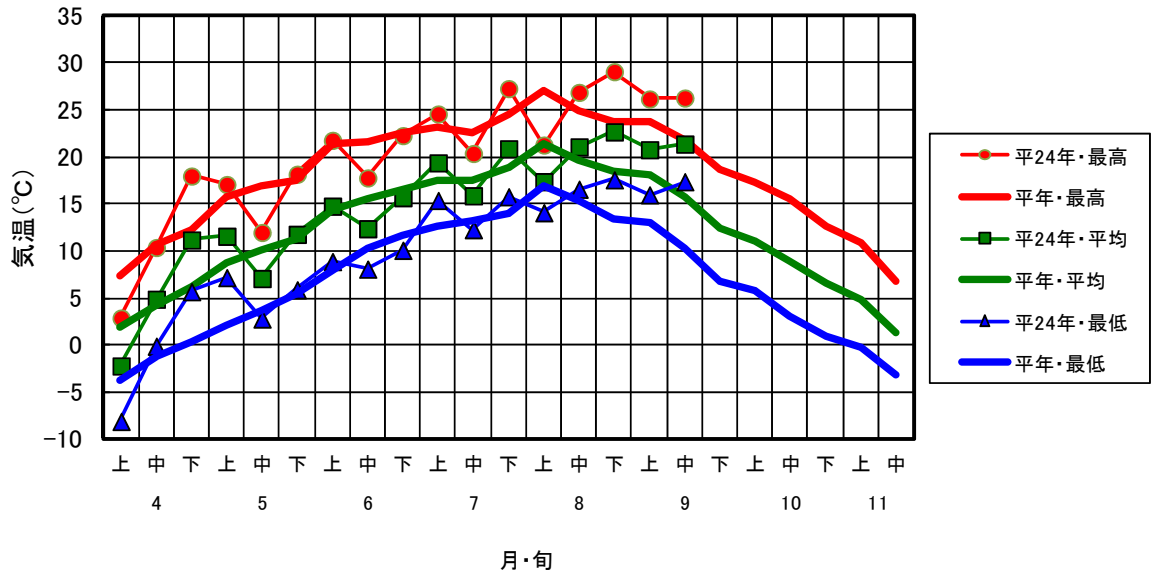
気象表

項目 月・旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	22.7	18.4	4.3	29.1	23.8	5.3	17.6	13.5	4.1
9月上旬	20.8	18.1	2.7	26.2	23.7	2.5	16.0	13.0	3.0
9月中旬	21.4	15.7	5.7	26.3	21.8	4.5	17.4	10.2	7.2

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	14.5	31.4	△ 16.9	84.9	50.0	34.9
9月上旬	71.5	62.7	8.8	62.7	46.9	15.8
9月中旬	30.0	20.9	9.1	53.8	50.3	3.5

注) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

平年値は前10か年間の平均である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

### 1) 春まき小麦 作 況：良

事 由：出穂期が2日早く成熟期が平年並で、登熟期間は平年より2日長くなり、子実重は「春よ恋」で平年比121%と多収であった。リットル重、千粒重も平年を上回った。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
子実重(kg/10a)	552	457	95	584	441	143
同上平年比(%)	121	100	21	132	100	32
リットル重(g)	812	796	16	820	796	24
千粒重(g)	41.4	39.3	2.1	43.9	41.0	2.9

注) 「春よ恋」の平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。  
「はるきらり(参考)」の平年値は前5か年の平均。

### 2) とうもろこし(サイレージ用) 作 況：平年並

事 由：9月20日の稈長は平年を15cm上回っている。本年は、抽糸期が平年より3日遅かったが、抽糸期後は全般に高温で推移しており、登熟は平年並に進んでいると考えられる。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (9月20日)	288	273	15

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

### 3) 大豆 作況：平年並

事由：主茎長は平年より長いが、主茎節数、分枝数は平年並である。着莢数は8月20日時点では平年を上回っていたが、その一部が脱落したため、ほぼ平年並となった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)		9.26	
主茎長(cm) (9月20日)	75.5	60.9	14.6
主茎節数(節) (9月20日)	11.7	10.8	0.9
分枝数(本/株) (9月20日)	5.2	5.1	0.1
着莢数(莢/株) (9月20日)	65.9	71.9	△6.0

注) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

### 4) 小豆 作況：平年並

事由：8月下旬～9月中旬の気温が平年より高かったため、登熟は順調に進み、成熟期は平年より「サホロショウズ」で3日、「エリモショウズ」で7日、それぞれ早かった。主茎長は「サホロショウズ」では平年よりやや長いが、「エリモショウズ」は平年並で、着莢数は両品種とも平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.15	9.18	△3	9.19	9.26	△7
主茎長(cm) (9月20日)	88.0	76.5	11.5	74.0	71.0	3.0
主茎節数(節) (9月20日)	14.6	13.3	1.3	14.5	14.3	0.2
分枝数(本/株) (9月20日)	4.3	4.0	0.3	4.4	3.9	0.5
着莢数(莢/株) (9月20日)	61.4	61.6	△0.2	61.7	61.7	0.0

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

## 5) 菜豆

作況：平年並

事由：登熟期間の気温は平年より高く推移したが、成熟期は平年と同日であった。草丈、主茎節数、分枝数はほぼ平年並である。着莢数は8月20日時点では平年をやや上回っていたが、その一部が脱落したため、ほぼ平年並となった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9. 3	9. 3	0
草丈(cm) (成熟期)	50.4	45.5	4.9
主茎節数(節) (成熟期)	4.9	5.2	△0.3
分枝数(本/株) (成熟期)	4.1	4.4	△0.3
着莢数(莢/株) (成熟期)	20.7	20.3	0.4

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、22年(最豊)を除く5か年の平均。

## 6) ばれいしょ

作況：やや良

事由：「男爵薯」は、8月上旬の低温と、その後の8月下旬以降の高温、9月上旬のまとまった降雨による十分な水分の影響を受け、枯ちょう期が平年より遅れている。上いも数が平年より多く、また塊茎の肥大が順調に進み、上いも平均重が平年並だったことから、上いも重は平年をかなり上回っている。でん粉価も平年をやや上回っている。「コナフブキ」は、上いも重は平年をやや下回っているが、でん粉価が平年を上回っていることから、でん粉重は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちょう期 (月.日)		9.2			10.5	
上いも重(kg/10a) (9月20日)	5283	4387	896	4610	4759	△149
でん粉価(%) (9月20日)	15.3	14.8	0.5	22.2	21.2	1.0
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	977	960	17

注) 平年値は前7か年中、平成17(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均

## 7) てんさい

作 況：やや良

事 由：地上部の生育は、草丈、茎葉重が平年をやや下回ったものの生葉数は平年をやや上回った。地下部は、8月下旬からの高温の影響で根中糖分が平年を0.5ポイントほど下回っているものの、根重および根周は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播注2)		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (9月20日)	59.8	64.5	△4.7	55.5	58.9	△3.4	60.1	67.8	△7.7
生葉数(枚) (9月20日)	31.0	29.8	1.2	32.4	29.1	3.3	29.9	27.1	2.8
茎葉重(g/個体) (9月20日)	658	882	△224	846	933	△87	768	947	△179
根重(g/個体) (9月20日)	1062	926	136	1167	992	175	972	763	209
根周(cm) (9月20日)	36.0	34.0	2.0	38.2	36.3	1.9	33.7	31.6	2.1
根中糖分(%) (9月20日)	13.95	14.52	△0.57	14.24	14.74	△0.50	13.80	14.31	△0.51

注1) 平年値は前7か年中、平成17年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 直播「モノホマレ」は欠株が多いため参考成績

## 8) 牧 草 (チモシー)

作 況：良

事 由：1、2番草の合計乾物収量は平年比113%と高かった(8月報告)。なお、2番草刈取り後は、8月下旬～9月上旬の気温が平年より極めて高く推移したが、3番草再生時(2番草刈取後25日目：9月2日)の草丈は平年をやや下回った。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
草丈(cm)	3番草再生時	42	46	△4

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最豊)、21年(最凶)を除く5か年の平均。

9) たまねぎ 作 況：平年並

事 由：早生種「改良オホーツク1号」では、枯葉期および総収量、平均一球重、規格内収量は平年並であった。晩生種「スーパー北もみじ」では、8月下旬以降、気温が高く推移したことから、枯葉の進みが早く、枯葉期は平年より5日早かった。平均一球重は平年を下回り、総収量は平年を下回ったものの、規格内率が平年より高く、規格内収量は平年並であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯葉期 (月.日)	8.22	8.21	1	9.1	9.6	△5
収穫期 (月.日)	9.3	9.2	1	9.13	9.13	0
総収量 (kg/10a)	7815	7623	192	6496	7331	△835
規格内収量 (kg/10a)	6519	6599	△80	6127	6389	△262
同上平年比 (%)	99	100	△1	96	100	△4
規格内率 (%)	83	88	△5	94	86	8
平均一球重 (g)	254	259	△5	211	253	△42

注) 平年値は前8か年中、平成17年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとした)、22年(最凶)を除く5か年の平均。